

和地ひとみレポート No.195

社会福祉協議会が災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施

東大和市の災害ボランティアセンターはどこ？

■第1回訓練を実施

…去る3月22日、東大和市社会福祉協議会（以下、社協）の主催で、第1回「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」が実施されました。東大和市は、平成25年3月26日に社協と災害時におけるボランティア活動に関する協定を締結しています。この協定は、市と社協が連携し、災害時の円滑なボランティア活動を推進することを目的としており、災害ボランティアセンターの設置・運営や、平常時の研修・講習会等を開催することにより、災害時における協力体制の確立を定めたものとなっています。その後、市と社協で連携し、災害ボランティアセンターの設置・運営に関するマニュアル等を作成。昨年、そのマニュアルが完成したことを受けて、このマニュアルの内容を使った初めての訓練実施となりました。

…当日の午前中は災害ボランティアセンターのスタッフとなる社協のスタッフの皆さんを中心に、災害ボランティアセンターの説明と設置準備を行い、その後、被災者役の方からのボランティア養成電話の受付、そして被災者のお宅への訪問、調査、書類作成などボランティアを受ける前段の訓練が行われました。そして、午後にはボランティア役となった多くの市民の方（「社協だより」の募集に応募した方、社協のボランティアに登録されている方の一部、自治会などからの応募者など）がボランティアの受付、オリエンテーション、被災者宅に訪問しての作業などを実施。実際の流れを体験することができました。

■災害ボランティアセンターとは

…平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、それまで主としてボランティアに携わってきた人々とは違う（初めてボランティアに参加する方など）多くの市民（167万人：1997年に兵庫県が把握している人数）が全国から災害ボランティアとして参集しました。そのため、平成7年は「ボランティア元年」と呼ばれています。しかし、当時はボランティアセンターをNGO団体（民設民営）や様々な団体が任意に設置しており、現地では混乱もあったようです。

…このような状況を受け、徐々に災害ボランティア活動は、行政や、地元の団体、NPO、社会福祉協議会などのいわゆるCBO（Community-Based Organization、“地域に根ざした機関”）が平常時から連携して、災害時には協働して災害ボランティアセンターを構築するようになってきたようです。

…私も、東日本大震災後、ボランティアとして10回ほど被災地を訪れましたが、訪れる前には事前に現地のボランティアセンターのホームページを確認し、必要があれば事前連絡をしました。そして、まずは現地のボランティアセンターを訪れ、当日の作業内容、訪問先など、ボランティアセンターの指示のもとボランティアに参加しました。

【災害ボランティアセンターとは】

- 1:地震などで被災し、助けを必要とする人と、ボランティアとして被災地の支援をしたい人をつなぐ機関
 - 2:災害時に臨時的に設置される
 - 3:被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、災害による「困りごと」にボランティアとともに対応する。
- ※東大和市では、市と社協、関係機関、東大和青年会議所、他地域社協職員等の応援を得て運営。



【災害ボランティアセンター活用の流れ】

- ① 被災者が電話、来訪でボランティアセンターに相談。（がれきの片付けを手伝ってほしい、家具の転倒など部屋の中がぐちゃぐちゃなので片付けを手伝ってほしい、避難所に慰問に来てほしい、交流の場づくりをしてほしい等）
- ② ボランティアセンターのスタッフが相談に来られた方の話を伺う。また、必要な場合は現地を確認に行く。
- ③ ボランティアセンターに集まったボランティアの方にボランティア先を伝える。（地図、ボランティアの内容、そのほかのニーズなど）
- ④ ボランティアに必要な道具、資材をボランティアセンターが貸し出し、ボランティアがボランティア先へ行き活動。

…今回の訓練で想定されたケースには、実際の作業のほか、相談者のニーズまで細かく設定されていました。例えば、女性に来てほしい、作業だけではなく話し相手としても来てほしい、また、依頼主がご夫婦の想定ケースでは、奥様はボランティアに来てもらいブロック塀のがれきを片付けたいがご主人がボランティアには来てほしくないと言っているの、その説得からお願いしたいなどの想定もされていました。

…訓練では必要人数ごとにボランティアのグループを作り、グループ長を決定。グループ長を中心に仮に設置された市内の活動場所まで行き、被災者役の方とコミュニケーションを取りながら作業。作業後はボランティアセンターに戻り、作業報告書と活動報告書を記入して提出しました。

…また、訓練後の反省会では様々な意見、感想が多く出ました。やはり、作業だけではなく、被災者の気持ちに寄り添うことの重要性は多くの方が感じたようです。また、被災者役で参加した目の不自由な方、車いすの方々は、ボランティアセンターの存在と活用方法を今回知ることができたことで、災害時の不安が和らいだとのこと。本当に安心できたと感想を述べられていました。（裏面に続く）

■せっかくのボランティアセンターも

…社協のスタッフからは「災害ボランティアセンター」のことを知ってもらいたいということが何回も言われました。というのも、東日本大震災の際も、ボランティアセンターを立ち上げて、被災者の人がボランティアセンターを知らず、ボランティアの要請相談が少なく、せっかく集まってくれたボランティアの方を派遣する所がないということもあったからです。

■東大和市のボランティアセンターはどこ

…東大和市の災害ボランティアセンターは「**ハミングホール内**」に設置することとなっています。実際に災害が起きた場合のボランティアセンターの情報発信は、市民向けにはチラシ、ロコミ、自治会を通じて行われ、ボランティアに参加したい方向けには、インターネットで情報が発信されることとなります。現在のところ災害ボランティアセンターの電話番号はまだ未定とのことでしたが、ハミングホールの電話番号を活用する可能性もあるとのことでした。…万が一、災害が発生した後、何か困りごとがあった場合は、この災害時ボランティアセンターを思い出していただき、情報を集めて活用してほしいと思います。

■市民の協力も必要

…自身が被災していても、自宅が無事、家族は心配ないといったボランティアに参加可能な状況になった場合は、市民ボランティアとして、東大和市民の方にもぜひ参加してほしいとの話も社協スタッフからありました。初めて東大和市を訪れるボランティアの方を案内する、ボランティア先を訪問するなど「地の利」のある市民ボランティアはとても力強い存在との話でした。…今回の訓練は第1回でしたので、実際の動きをシミュレーションしてみることで、様々な課題も見えました。今回出た課題を解決し、さらにこのような訓練を重ねることで、実際の災害時にできる限りスムーズに災害ボランティアセンターが設置され、復興支援の拠点、そしてボランティアの拠点として機能するようにしてもらいたいと思います。



災害時の避難場所等の誘導・案内が充実

電柱の巻き看板に「避難場所等の表示」も明記

東大和市は災害時における避難場所等の誘導・案内を拡充するために、企業広告付き看板(巻き広告)＝企業の広告に避難場所等の案内を併記した看板を電柱に掲示すべく、東電タウンプランニング株式会社と協議を続けていました。

そして、このたび合意に達することができ、4月13日には協定を締結することが決定。

この協定により、東電タウンプランニング社は東京電力の電柱の避難場所などの表示を付けた巻き広告に対し企業などの広告主を募集し、電柱への掲示を進めていきます。この看板掲出にかかる費用や維持管理に要する市の負担はなし。また、企業の広告に関しては公共広告にふさわしい内容とし、掲出にあたっては市と事前協議することも協定には示されています。

市は「今回の協定が企業などの地域貢献意識を伴って実施されることは、市の防災施策と安心・安全な街づくりを進めるうえで、大いに役立つものと考えている」とコメントしています。

自宅や勤務先などの周辺の避難場所を確認している人は多いと思いますが、災害が発災した際に自宅や勤務先には限りません。避難場所等については、標識などが設置されていますが、その数は限られています。市内にある電柱に、避難場所等への誘導・案内看板が設置されれば、知らない地域にいたとしても避難場所等によりスムーズに行けるようになります。また、今回の取り組みは民間企業との協働で進めているということも良い点だと思えます。

限られた予算、人手の中で、“取り組めない”としていたことも、アイデアや呼びかけによって実現することもあると思います。

今後も市にはこのような視点で工夫を凝らし、市民の「住んで良かったまち」への満足度向上のため、さらに新たな取り組みを進めてほしいと思います。



他自治体の避難所等の案内付き巻き広告例

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」 【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/「人を活かす」経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102